

「郡山市における糖尿病対策に係る共同研究」の概要

共同研究内容

糖尿病の治療中断に影響を及ぼす郡山市特有の社会、文化、環境要因と、糖尿病治療中断者の特徴や中断に至る心理的要因を探るとともに、地域別の特徴や問題点を知るための調査を実施し、郡山市における糖尿病対策を見出す。

調査対象者の抽出方法と抽出結果

福島県独自情報提供システム、国保データベースシステムを用いて抽出した患者の医科レセプトデータを確認し、糖尿病治療の「継続者」、「中断者」、「投薬のみ継続者」へ分類。

① 糖尿病患者の定義

2018年3月末時点で40歳以上の国保加入者で、2016年12月から2018年3月末(当調査期間)において、糖尿病に対する内服薬および/またはインスリンの処方を受けている人

② 中断者

①のうち、当調査期間において糖尿病に対する内服薬および/またはインスリンの処方もHbA1cの検査も受けていない期間が6カ月以上継続して認められた人

③ 投薬のみ継続者

①のうち、当調査期間において糖尿病に対する内服薬および/またはインスリンの処方を受けているものの、HbA1cの検査を受けていない期間が6カ月以上継続して認められた人

④ 継続者

①のうち、「中断者」、「投薬のみ継続者」に当てはまらない人

※透析患者は今回の解析から除外

抽出結果:合計 6,050名 (継続者 5,644名、投薬のみ継続者 271名、中断者 135名)

調査方法

■ インタビュー調査

- 郡山市の各地区担当保健師約30名が対面で実施
 - ✓ 対象者106名(継続者89名、中断者17名)
 - ✓ 「診断当初からの歩みと展望」、「リスク認知の状況」、「健康・糖尿病・人生観」の3つの視点から考察した

■ アンケート調査

- 20問からなるアンケートを郵送
 - ✓ 送付数997名(継続者760名、投薬のみ継続者148名、中断者89名)
 - ✓ 回答者数372名、回収率37.3%

■ データベース解析

- 既存のデータベースと今回の調査で用いた抽出方法により、15地区における評価項目を算出【評価項目】健診未受診率、HbA1c6.5以上率、糖尿病患者率、中断者率、投薬のみ継続者率、透析患者率

調査結果

■ インタビュー調査

糖尿病治療を中断する人の傾向として、糖尿病治療により経済面の負担や生活に制限が生じると考えていること、糖尿病の具体的な経過や生活上の苦勞が想像できないこと、飲酒が生活に入り込んでいることなどがわかりました。一方、糖尿病治療を継続できている人は、糖尿病による致命的な事態を具体的に想定できており、糖尿病になったことで健康の重要性を理解して健康管理への意識が向上していること、自立生活を重要視し、介護や家族などへの負担を懸念していることなどがわかりました。

■ アンケート調査

治療中断者では、糖尿病への正しい理解や認識が不足している人、時間の使い方を自身で自由に決められない人が有意に多いという結果が認められました。治療継続者では、家族など身近に糖尿病患者がいる人が多かったことから、治療の必要性を具体的かつ身近に捉えやすいため、治療を継続しやすい可能性が考えられました。なお、治療継続者においても、自身が糖尿病であると認識している者の割合は 7 割程度に留まっており、患者教育の必要性が示唆されました。治療状況に関わらず共通に認められた傾向としては、患者の多くが医師からの情報を重要視している一方で、市民公開講座や医師以外の医療従事者から情報を得ている患者が少ないこと、糖尿病治療の基本である食事や運動療法の実践率は高くないこと、時間的・金銭的負担感があるとの回答が一定数見られたことが挙げられます。また、調査実施前に、治療中断理由になりうると仮定していた「交通手段の無さ」、「被介護者の存在」、「団体活動に参加していないこと」、「同居家族がいないこと」、「通院手段の不便さ・移動の不便さ」、「自由に使えるお金が少ないこと」は、今回の調査で関連性は認められませんでした。

■ データベース解析

市内 15 地区の患者数や治療を中断する割合などを算出しました。この結果は、今後、各地区の保健師が介入していく際の参考に使用されます。